



特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会
会報 第105号 2021年9月5日発

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

実りと共に、谷戸はお花ばたけに...



ネット張り

谷戸の植物は、目立たずひっそりと、美しく秋の到来を告げてくれます。大勢の方に参加を呼びかけられない悲しい状況が続いていますが、せめて谷戸を散策して、当会の見事な農作物と、お花ばたけをお楽しみください。どうか早くみんなが集えますように。

谷戸往来

谷戸塾「谷戸の生きもの」1/25(日)

湿地の手入れを行い、そこで生息する生きものについて学びました。生い茂っていた草が刈り取られ水面が現れると、嬉しそうにトンボが飛び交います。参加した塾生は、汗をめぐい笑顔になりました。



ナンテンハギ



ウサギ



ゴマ

鎌倉市内でも、谷戸は多くの野草が密集している場所です。昔からの里山と耕作をやめた場所が混在しているからでしょう。谷戸の会の各班で、草刈りの仕方が違うことが、さまざまな野草が見られることにつながっています。中でも手入れ（草刈り、田んぼの耕作）をしないと消えてしまう里山の植物が生き残っているのが谷戸の特徴です。9月になると、よく刈られた田畑の土手で、ツリガネニンジンやワレモコウなどがちらほら咲き始めます。お彼岸の頃には、ヒガンバナや湿地のミゾソバが咲き始め、10月上旬は湿地（田んぼの跡地）が花畑のようになります。10月半ばには、ススキによく似たオギの穂が風にそよぐようになります。また、広場や散策路沿いには、コブナグサやチカラシバなど谷戸以外ではあまり見られないイネ科の花や、サラシナショウマ、トリカブトなど市内では少なくなった野草も見られます。これらの公園管理作業で駆除されやすい野草を保護することも行っています。

●谷戸の自然の様子 心配なこと、驚いたこと

毎年、たくさんの樹液を出す木は数本しかありませんが、今年から樹液がほとんど出なくなりました。隣の台峰緑地も同じ状況です。カブトムシなど樹液に集まる虫には大打撃でしょう。もう一つ、ジョロウグモの巣が激減しているのが気になります。ジョロウグモは散策路沿いや人家の周辺に大きな網をはるクモです。夏から秋には数メートルおきに巣があるのが普通ですが、今年は探さないと巣が見つからないほど減少してしまいました。数年前からヤブカが少なくなっていますが、クモのエサになる小さな昆虫が減っているのが原因かもしれません。生態系の底辺で異変が起きているのでしょうか？7月下旬に沖縄のチョウが突然現れ驚きました。アオタテハモドキというきれいなチョウです。雄と雌が見つかり、8月下旬まで何回も目撃されているということは、偶然に飛んで来たチョウではなく、人が放しているのではないかと思われる。40年ぶりに復活したトンボもいます、8月25日、コシボソヤンマが産卵している様子を観察、撮影しました。1980年代に隣の台峰緑地で記録がありますが、成虫の確実な記録は長年途絶えていました。

谷戸の生きもの

～ ツチカメムシ どっちだっていい？ ～ 離れたところから見ると黒くてつやがあるので甲虫の仲間に見えるが、近づくにつれてゴキブリに見えてくる。しかしよく見るとカメムシの仲間（カメムシ目）だと分かる。「どっちだっていいわ」という声が聞こえてきそうだが、ゴキブリは“ゴキブリ目”で“カメムシ目”とはだいぶ離れているのだ。それでも「どっちだっていいわ」と言われそうだが、「カメムシよりカマキリのほうがゴキブリに近い」と聞いたらどうか。やはり答えは同じか。このツチカメムシ、ゴキブリに擬態しているという話は聞かないが、脚のトゲトゲまでそっくりで他人の空似とは思えない。“ツチ”は“土”で、その名のとおりに地表を徘徊して植物の根、あるいは落下した果実や種子から吸汁するようだ。（たのくろまめお）



体験学習

（教育支援教室ひだまり）私は、自然体験教室でネギ畑のネギを掘り起こしました。初めに私は、シャベルの近くを掘りました。結構力が必要で大変だったけど楽しかったです。その後にネギ畑を掘ってへこみをつくりました。土が重くて大変でした。畑を掘っている時、ミズがシャベルに乗って面白かったです。次にネギの緑の部分の切りました。楽しかったです。

（深沢小5・田の草取り）草取りだけではなく、稲のまわりに空気をいれる作業もしました。根がとてものがっしりしていてすごかったです。前よりも稲が大きくなっていました。

（深沢小5・田の草取り）作業後の谷戸歩きが楽しくて、上にのぼって見た景色は、とても色鮮やかで、風が吹くと田の稲が波のように風にやられて、すごくすてきでした。

（富士塚小5・田の草取り）稲をふまずに草をとります。稲をふんではいけないのが少しむずかしくて、歩くのが大変でした。

（富士塚小5・田の草取り）谷戸を歩いたら、青色のシオカラトンボもいました。とても光っているように見えてキレイでした。



各班のお知らせ

田んぼ班

7月は日照りの中、熱中症に気を付けながらの田の草取り。雨が少なく田んぼのひび割れが心配でした。8月は一転大雨。土砂の流入、畔の越流が心配でした。10月2日から稲刈りです。みなさん頑張りましょう。



 雑木林の下草刈り

植物育成班

ヤマユリが咲きました。長年、観察していますが、今年のように花をつけたのは初めてです。なんと一本に36個です。続けていると、少しの変化でも感じるようになるのが楽しみのひとつです。



 水生昆虫調査

農芸班

照りつける太陽の下「梅干しの天日干し」を行いました。紫蘇と梅酢の香りがある夏の風情が、酷暑の作業を和らげてくれました。10月は谷戸の無農薬小麦をミネラル豊富な全粒粉に製粉します。

畑班

梅雨明け後の日照り・水不足が8月になると一転して多雨・日照不足。田の脇のさといもは元気がなく、さつまいもも全般的に成長が悪い。長ねぎの根腐れも心配。でも畑の景観は今年も問題なし。

雑木林管理班

今年は昨年よりも早く梅雨明けし、猛暑の中、谷戸の草木はいつも通り元気に生長しています。谷戸の草木は雨や暑さを味方に行っているので、それらに負けないよう、草刈りに奮闘しています。



 ヤマユリ

生態系保全班

湿地復元を協力してもらいました。マンパワーで水面が表れ、トンボが産卵に来ました。手入れをしたあとはインパクトを与えます。その後、水生昆虫がどう回復していくか、調査が大切になってきます。

自然遊び班

7/11 里山探検隊「かかし作り」★かかしをつくるのがむずかしかった。(小2)★たんぼにはいろいろな生き物がいた。田んぼに足がしずんだ。(小4)★赤しそジュースづくりがたのしかった。(小2)

9月

- 1日(水) 農 麦わら細工(しおり作り) ♣
植 秋の野草観察 ♣
4日(土) 田 すがい作り
5日(日) 田 すがい作り ☆
畑 大根の種蒔き ♣
雑 刈払機で草刈り ♣
講座「谷戸の植物観察」 ☆
11日(土) 生 虫の音を聞く ♣
12日(日) 田 はさ作り(田んぼ横) ♣
13日(月) 畑 草取り、草刈り ☆
19日(日) 田 はさ作り(もめんばたけ奥) ☆
22日(水) 畑 大根の間引き、長ねぎの土寄せ
26日(日) 田 稲刈り準備、畔の草刈り
27日(月) 畑 かぶ・冬菜の種蒔き ♣

10月

- 2日(土) 田 稲刈り ☆
生 虫の音を聞く ♣
3日(日) 田 稲刈り ♣
6日(水) 植 湿地の花の観察 ♣
9日(土) 田 稲刈り
10日(日) 田 稲刈り
13日(水) 畑 さつまいも掘り ☆
17日(日) 田 田んぼ周り道具の片付け・溝切り
雑 雑木林の下草刈り ☆
自 里山探検隊「さつまいも掘り」
18日(月) 畑 大根の間引き・草取り ♣
20日(水) 農 小麦選別・製粉(製粉機) ♣
23日(土) 田 脱穀
24日(日) 田 脱穀 ☆
畑 絹さやの種蒔き ♣
雑 雑木林の下草刈り ♣
27日(水) 畑 落花生の収穫
31日(日) 田 脱穀(予備)、粃干し、はさ片付け
雑 雑木林を歩いて調査 ☆ ♣

11月

- 3日(水・祝) 田 粃干し、溝切り、畔土寄せ
子育て懇談会主催
「谷戸で遊ぼう!さといもとどろんこ」
6日(土) 田 粃すり・精米、わら切り
7日(日) 田 粃すり・精米、わら切り ♣
雑 雑木林の除間伐
自 こども里山一日体験
「さといも掘り」▶
8日(月) 畑 たのくろ豆の収穫・吊るし干し ☆
10日(水) 生 野鳥観察入門 ♣
14日(日) 田 粃すり・精米、わら切り
雑 雑木林の除間伐 ♣
15日(月) 畑 さといも掘り・洞入れ ♣
17日(水) 農 たのくろ豆殻出し・選別 ♣
21日(日) 田 粃すり・精米、わら切り、落ち葉かき☆
雑 雑木林の除間伐
自 父と子の里山体験 ▶
24日(水) 畑 さつまいもの洞入れ
28日(日) 秋の谷戸まつり
畑 たまねぎの苗植え、にんじんの収穫

☆ 谷戸塾 ♣ 里山一日体験
各班活動 農家風休憩舎 9:30 集合
(農芸班、自然遊び班は、10時)
虫の音を聞く 山崎口ししい前 18:30 集合
20:30 頃まで
▶ 会員以外の方 参加費500円/組

今後の情勢によって中止や延期の可能性があります。
ホームページ、または事務所にご確認ください。

田：田んぼ班 畑：畑班 雑：雑木林管理班
農：農芸班 自：自然遊び班
生：生態系保全班 植：植物育成班
植：植物育成班

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内

TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く10時～16時

ホームページ：<https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp>

Eメールアドレス：ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

● 次号(会報106号)は、2021年11月に発行予定

